

加悦高チャレンジ！教科ニュース

# 国語科 教科だより



## ◆ 国語科の先生の紹介

**名前：**西村宏美（にしむら ひろみ）  
**教師になった理由：**高校時代の恩師に引っ張られた。  
**おすすめ本：**「舟を編む」（最近読んで、面白かった。）  
**時間があったらやりたいこと：**晴耕雨読・船旅  
**高校時代に頑張っていたこと：**部活動（陸上）  
**もし高校生に戻れたらチャレンジしたいこと：**  
 もう一度各教科の勉強をやり直す。  
**国語必勝法：**たくさん言葉に触れる  
**生徒諸君へ：**いろいろなことを経験して、広い意味の「勉強」をしよう。

**名前：**岡田九季（おかだ くき）  
**教師になった理由：**大学が教育大だった。  
**時間があったらやりたいこと：**速読法のマスター  
**高校時代に頑張っていたこと：**家事全般  
**もし高校生に戻れたらチャレンジしたいこと：**  
 「道」のつく運動クラブに入りたい。  
**国語必勝法：**幅広い年齢層の人と話をする。  
**生徒諸君へ：**集団で学ぶことの醍醐味は、人と触れ、お互いに刺激を受けて成長し合うことだと思います。自分を磨き、高める中で、一生の友となるような人との出会いをしてください。

**名前：**皿木 綾（さらき あや）  
**趣味：**茶道・落語鑑賞・仏像鑑賞・楽器演奏  
**特技：**般若心経の暗誦  
**教師になった理由：**高校の同級生の永山先生と一緒に先生がしたかったから。  
**おすすめ本：**「新明解国語辞典」  
**高校時代に頑張っていたこと：**天体観測（地学部に所属して「星」の勉強をしていた。）  
**国語必勝法：**とにかく音読する。（人に聞いてもらう、人のを聞く。）  
**生徒諸君へ：**がんばることと、まじめにやるのが一番すばらしい。「手を抜く」ことや「要領よく」できる人は全然すごくないのです。結果はどうあれ。

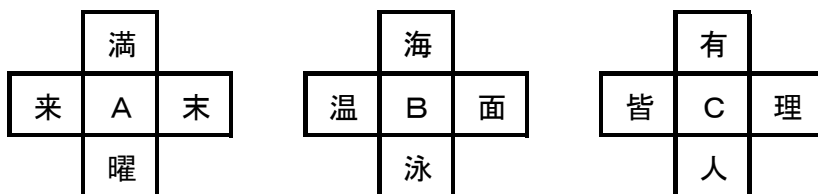
**名前：**荒田博隆（あらた ひろたか）  
**教師になった理由：**中学生の時に面白い授業をする先生がいて、憧れたのがきっかけです。  
**時間があったらやりたいこと：**読書  
**老後にやりたいこと：**旅行  
**高校時代に頑張っていたこと：**友人と遊ぶこと。  
**国語必勝法：**まとまった文章の内容を他人に分かりやすく説明してみる。  
**生徒諸君に：**長いようで短い高校生活を思い出深いものになるよう、頑張ってください。

## ◆ クイズ・パズルに挑戦！

問題：まず、四つのグリッドそれぞれに、二字熟語が四つできるように真ん中に入る共通の漢字を考えよう。

A～Cの漢字がわかったら、その三つを並べかえてできる言葉を答えてください。

これはなんと読むのかな？また、いつをさすのだろう？



(ふりがな)

(漢 字)


月
---



## ◆ 最近話題の“金環日食”

5月21日（月）の部分日食を見た人はいますか。京都市内など日本の各地では金環日食が観測されました。日本で観測された金環日食としては平安時代の末期、源氏と平氏の戦いの最中に起きたものが知られています。『源平盛衰記』の話は次のとおり。

**寿永二年閏十月一日（1183年11月17日）、水島にて源氏と平家と合戦を企つ。城の中よりは勝ち鼓を打つてののしりかかるほどに、天俄に曇りて日の光も見えず、闇の夜の如くになりたれば、源氏の軍兵ども日食とは知らず、いとど東西を失ひて舟を退きて、いづちともなく風に随つて遁れ行く。平氏の兵どもはかねて知りにつれば、いよいよ時をつくりて攻め戦ふ。**

寿永二年、水島（現在の岡山県倉敷市）で戦っていた源氏と平氏。この日食が起きると知らなかった源氏は、突然闇夜のように真っ暗になって右も左もわからなくなり、混乱します。あらかじめ知っていた平氏は、源氏側の混乱に乗じて戦いを有利に進めたそうです。

このような天体や気象に関する話は古文の日記や随筆などにも登場します。昔の人たちも同じように空を見上げ、星を眺めたり、天気を気にしたりしていたのでしょうか。

## ◆ 随想

身近な話題から一つ。「花札」という遊びをしたことはありますか？日本に古くからあるカードゲームの一つです。知らない人もいるかもしれませんが、今やインターネットなどで無料ゲームにもなっているので、見たことがあるという人も少なからずいるのではないのでしょうか？

花札には、札が全部で48枚あり、それを一年12カ月に分け、月折々の花鳥風月の絵柄が4枚ずつ描き込まれているそうです。例えば、一月は「松に鶴」、二月は「梅に鶯（うぐいす）」など。その中に、「菖蒲（しょうぶ・あやめ）」の絵が入っているものがあります。そしてさらに描かれているものがありますが、何か分かるでしょうか？水の上に板のようなものが渡っていて・・・それは「橋」です。正確には、「菖蒲（あやめ）に八つ橋（やつはし）」という名の五月の札です。

「八つ橋」というと京都の有名なお菓子を思い出しますが、それとは全く関係なく、これは、幅の狭い板を数枚つないでかけた橋のことで、蜘蛛の足のように幾筋にも流れる川の上を八枚の板で渡したという、愛知県の地名に由来します。そこは「カキツバタ」という花の名所で、実際には「菖蒲」ではないのですが、二つは見た目が似ていて、ぱっと見ただけでは区別が難しいようです。そこで、花の名が「カキツバタ」に「八つ橋」・・・何か聞いたことがあるぞと思う人はいるのでしょうか？そう、『伊勢物語』の有名な「東下り」です。

「古典」を勉強していると必ず目にする平安時代の作品『伊勢物語』。男主人公が、京を追われて東国へ下る途中、ここ「八つ橋」で都に残してきた妻を思って「カキツバタ」の五字を歌に入れて詠むという場面。実は五月の札は、この話がもとになっています。この小さな一枚の絵の中には、物語が入っているのです。

『伊勢物語』のこの場面は、多く芸術作品の題材にもなりました。しかし芸術とまではいかななくても、「花札」のように我々の身近なところまで、千年以上も前の日本人の感覚が残り入り込んでいるのです。

私は、毎年必ず生徒から、「なぜ古典を学ぶのか？」と問われます。受験のため。日本の伝統・文化だから。カリキュラムで決まっているからしかたなく。人によってさまざまな答えがあると思いますが、一つには、このように日本人の考え方を学び、日本的な認識・感覚を知るといった意味があるのだと思います。

世の中は、科学技術が発達し、とても便利で豊かになりました。しかし、その技術を生み出すのも人間であれば、利用するのも人間です。そこで起こる問題やさまざまな選択を、解決したり決定したりする最終的なところが、人間の持つ感覚や感情なのです。それを磨くために、いろいろな考え方や感情を知ることが必要なのだと思います。それを学ぶのが、「古典」などの、将来役に立つのかどうか、一見しただけではすぐにはわからない科目なのだと思うのです。

花札から大きく話が飛びました。私たちの日常生活に残っている「日本的な感覚」に興味を持ち、少しでも国語を身近なものに感じてもらえればと思い、筆をおきます。

## ◆ 各種検定資格のお知らせ

6月15日（金）に第1回漢字検定を実施します。  
受験予定の人は過去問に挑戦し、実力を確認してください。  
おおまかな合格ラインは次のとおりです。

- 2 級・・・160点／200点（80%）
- 準2級・・・140点／200点（70%）
- 3 級・・・140点／200点（70%）

今年度の漢字検定実施予定

第2回・・・ 8月24日（金）

第3回・・・ 11月 2日（金）

第4回・・・ 1月25日（金）

行事等により、変更の可能性があります。

